

たばこ大幅値上げ、県内の反応



生産減や減収懸念 喫煙者 税の偏り納得いかぬ 非喫煙者 減煙進むきっかけに

マイルドセブンが410円に。10月1日のたばこ税増税に伴い、日本たばこ産業（J T）は約100銘柄の値上げを決めた。喫煙者は負担増に困惑、吸う本数の減少が見込まれる。たばこ販売店や葉タバコ農家、自治体の税収への影響を懸念する声も上がる。一方、非喫煙者は受動喫煙機会の減少につながると歓迎する。 25.1

今回の増税額は1本当たり3・5円で、1箱では70円の計算。J Tは販売減少分も見込み、「マイルドセブン」など33銘柄を300円から410円に引き上げる。

J Tは今回の値上げで販売数量が前年比25%超減少すると見ており、岡山支店は「負担をお掛けして申し訳ないが、コスト削減では吸収しきれない」と理解を求めている。

× × ×

1日1箱（20本）吸うという県庁の男性職員（35）は「税負担の偏りに納得いかない」と漏らし、「1本で5円、1カ月で3千円増と、とらえ方で意識が変わるが、間違いない本数は減る」と不満顔だ。

県内の葉タバコ生産農家を購入する来店者が増えたコンビニも同様。鳥取市内の店長は「値上げの負担感で1カートン（10箱入り）買いが減ることも考えられる。その分、こまめに来店、購入してくれたらいい」と消費動向を気に掛ける。

× × ×

県や市町村のたばこ税取も減少する見込みだ。

耕作組合
自治体

家やたばこ販売店では消費減への懸念が膨らむ。増税で24%程度の消費減を見込む北栄町はたばこ耕作組合、安福な外国産の葉タバコの輸入で組合員数と耕作面積が減少している。浜田要太郎組合長（68）は「たばこの値上げは大ダメージだ。こうなると生産も考えなければならなくなる」と嘆く。

成人識別ICカード「タスポ」導入で、たばこ2900〜3200円のたばこが並ぶ自動販売機。10月からは400円台が大半を占める。30日、鳥取市内

県税務課によると、09年度の県たばこ税収見込み額は10億5800万円。10年度は国が試算した増税分3200万円を勘案しても減額する見通し。同課は「増税による値上げと健康志向で、減収は必至」とみる。

一方、1年ほど前から禁煙する建設会社社員（41）は「たばこの煙がいかにか不快か、やめてから分かった。減煙が進むきっかけになれば」と歓迎。鳥取市内の主婦（35）も「子どもの受動喫煙が気になるので、これを機に禁煙の動きが広がってほしい」と期待を込める。